

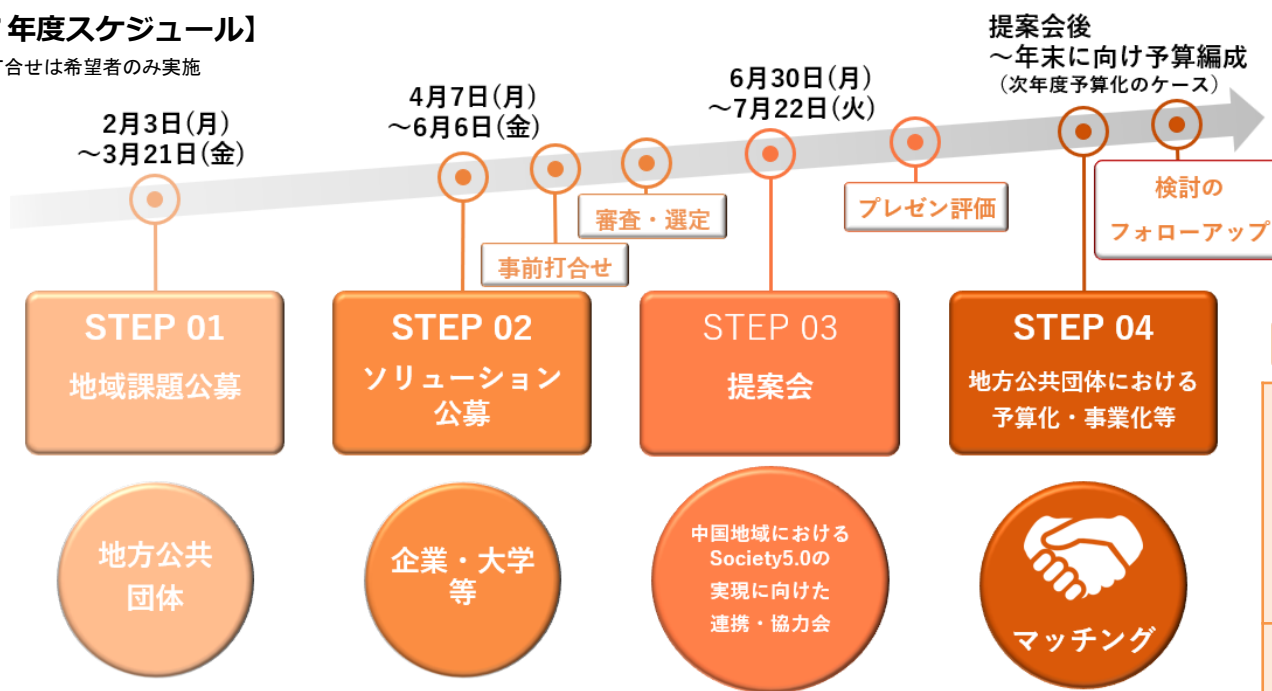
令和7年度「デジタル技術を活用した地域課題解決案の提案会」の実施状況

- 地方公共団体が抱える地域課題を公募の上、寄せられた課題について、企業・大学等に対しソリューションを公募し、地方公共団体と企業・大学等を直接結びつける「デジタル技術を活用した地域課題解決案の提案会」*を令和2年度から開催。
- これにより、**地域課題に合った課題解決のイメージ**を個別具体的に持っていただき、**実証・実装に向けたプロジェクト**が実施されること等を通じて、地域社会DXに資する。
- 令和7年度は、**26件（21企業等）**について提案会を実施し、そのうち**6件**が実装・実証に向け検討中。

* 主体は「中国地域におけるSociety5.0の実現に向けた連携・協力会」（中国総合通信局、中国経済産業局、中国財務局、中国四国厚生局、広島労働局、中国四国農政局、中国地方整備局、中国運輸局、中国地方測量部で構成。オブザーバーとして、広島県、中国経済連合会、国税庁が参加。）

【令和7年度スケジュール】

※事前打合せは希望者のみ実施



【参考】近年のマッチング事例

令和5年度	地公体	浅口市
	地域課題	LPWA (ZETA) 通信網構築・センサ設置を通じた『IoTスマートシティあさくち』
	実施企業	TOPPAN (株)
令和4年度	地公体	備前市
	地域課題	地域経済活性化に向けた地域通貨の導入
	実施企業	日本カード(株)

成果と実績	地域課題の応募	地域課題解決案の応募	提案会の実施件数	実装・実証に向けた検討段階
令和7年度	4団体・12件	33企業等・62件	21企業等・26件	6件
令和6年度	3団体・4件	17企業等・18件	15企業等・17件	10件

サイバーセキュリティに関するセミナー・勉強会等の開催

- 中国地域の中小企業や地方公共団体等のサイバーセキュリティに関する意識とレベルの向上や人材育成を目的に、システムに携わり始めた方、経営層などを対象にしたセミナーや、セキュリティ責任者、運用担当者などを対象にした勉強会・演習等を開催。
- 地域におけるサイバーセキュリティ対策の強化を図るため、令和2年に発足した「中国地域サイバーセキュリティ連絡会」との共催により、地域の中小企業、自治体等を対象とした講演会やインシデント演習等を開催し、サイバーセキュリティの啓発活動及び構成員相互間での情報共有を推進。

令和7年度セミナー・勉強会等の開催状況

名称	開催月日	開催場所	参加人数	概要
サイバーインシデント対応トレーニングin広島	R7/5/26	広島YMCA国際文化センター (広島県広島市)	43名 (定員は40名、3名は見学)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中小企業のセキュリティ運用担当者等を対象に地域のセキュリティレベルの底上げやサイバーセキュリティの人材育成を図るため、CYDERの一部を体感してもらいながらサイバーインシデント対応の基礎や対処方法を学ぶ勉強会を実施。 ● 講師：NICTナショナルサイバートレーニングセンター長 園田 道夫 氏
全国型CTFコンテスト	R7/11/8	サテライト会場 サンラポーむらくも (島根県松江市)	会場21名	<ul style="list-style-type: none"> ● CTFのイベントをベースに、若者（主に大学生）を対象に、セキュリティ業界の人材育成や企業の人材確保にもつながるイベントを開催。全国7総合通信局合同開催。 ● 講師：NICTナショナルサイバートレーニングセンター長 園田 道夫 氏
サイバーセキュリティセミナー2025in岡山 (AI時代におけるサイバーセキュリティ対策)	R7/12/11	岡山コンベンションセンター&オンライン	188名 (会場35名、オンライン153名)	<ul style="list-style-type: none"> ● サイバーセキュリティにおけるAI利用の最新情報やAIを利用することによるリスク管理の理解を深めることを目的に講演及びパネルディスカッション（AI利用の矛と盾）を実施。 ● 講師：日本ブルーポイント(株) 増田 幸美 氏、(株)両備システムズ 鈴木 堅太 氏、NICT 田中 智 氏、コーディネーター：岡山大学 教授 野上 保之 氏

「ICT利活用セミナー」の開催

- 令和7年7月24日、地域社会DXに資することを目的として、自治体・企業などを対象とした「ICT利活用セミナー」をweb方式により開催し、159名が聴講。
- テーマを「AI×ICT×利活用分野」とし、「通信」「防災」「交通」「社会インフラ」の分野から、具体的な取組事例を紹介。
- 本セミナーは、令和5年度から電子情報通信学会中国支部と共催で開催しており、基調講演を電子情報通信学会枠、事例発表を中国総合通信局枠として実施。

セミナーの概要

基調講演

AIXICT×通信

演題：画像生成AIに基づくセマンティック通信

講師：慶應義塾大学 理工学部 情報工学科 教授 大槻 知明 氏

開会挨拶
梅村局長基調講演
大槻 知明 氏

事例発表1

AIXICT×防災

演題：AIを用いた河川管理の高度化

講師：鳥取県 中部総合事務所 県土整備局
計画調査課 課長補佐 林原 伸生 氏事例発表1
林原 伸生 氏事例発表2
宮崎 一 氏

事例発表2

AIXICT×交通

演題：NTT西日本グループにおける自動運転EVバス事業の取組み

講師：NTT西日本株式会社 事業開発部長
兼 Navya Mobility SAS 取締役 宮崎 一 氏事例発表3
小村 淳浩 氏閉会挨拶
広島大学 相原 玲二 氏

事例発表3

AIXICT×社会インフラ

演題：AIを活用した道路異常検知

講師：株式会社イーグリッド 代表取締役CEO 小村 淳浩 氏

「産学官連携による地域社会DXフォーラム」の開催

- 令和7年12月2日に広島市で「産学官連携による地域社会DXフォーラム～実践者が語る、中国地域の現在と未来～」を開催し、**232名が参加**（会場：42名、オンライン：190名）。
- このフォーラムは、持続可能な社会の実現や産業の競争力向上を図るためには、産学官の連携が不可欠であることから、地域社会の課題についてより良い解決方法を考え、地域社会DXの推進に資することを目的として開催。

実施概要

基調講演

「地域社会DX推進による地域課題の解決について」

慶應義塾大学 名誉教授 國領 二郎 氏
(情報通信審議会 情報通信政策部会 部会長)



【講演概要】

AI活用による生産性向上、情報の特性と地域の役割、データ連携基盤の重要性、先進的具體例として前橋市（めぶくID）の取組を紹介し、将来像としてデータ連携基盤が、制度や人間関係、信頼など様々なものを提供していくプラットフォームになり、行政自体がプラットフォームになっていくような将来を目指すべきとの講演があった。

地域課題解決事例紹介

○ 中国総合通信局

情報通信連携推進課の畠山課長から、令和2年から実施している「**デジタル技術を活用した地域課題解決案の提案会**」の取組を説明し、令和6年度の実績を発表した。

○ 岡山県津山市（オンライン講演）

津山市デジタル推進室の岡室長から、総務省「令和6年度地域課題解決のためのスマートシティ推進事業」による**データ連携基盤を活用した健康寿命延伸の取組**を発表した。

○ 広島県竹原市（録画による講演）

竹原市建設部の岡崎部長から、産学官と市民が参加するデジタル竹原研究会による、**データ利活用によるまちづくりの取組**を発表した。



パネルディスカッション

テーマ

「産学官連携による地域社会DXの推進とは」

モデレーター

國領 二郎 氏：慶應義塾大学 名誉教授

パネリスト

官 岡 美由紀 氏：津山市 企画財政部 デジタル推進室 室長(オンライン)

学 高瀬 正道 氏：広島大学 Town&Gown office シニアリサーチャー
・パネルディスカッション冒頭、タウンと学生・教員を意味するガウンが一体となり地域課題の解決を図る取組を紹介

学 長井 正彦 氏：山口大学大学院 創成科学研究科 教授
(兼任)応用衛星リモートセンシング研究センター センター長
・パネルディスカッション冒頭、衛星データビジネスによるエコシステムを地域の大学と行政が共に作る地域活性化の取組を紹介

産 松本 貴裕 氏：NTT西日本(株) エンタープライズビジネス営業部 デジタルビジネス推進部門 担当部長
・パネルディスカッション冒頭、産官だけでは住民の視点が抜けてしまいがちなので、行政サービスの必要性を学生と住民が議論する、ワークショップやフィールドワークの取組を紹介



パネルディスカッションの様相

「SNS時代のICTリテラシー」向上セミナーの開催

「SNS時代のICTリテラシー」向上セミナー2025in広島

～偽・誤情報が氾濫するSNS情報への向き合い方を考える～

- 日時 令和7年11月21日(金) 13:30～16:00
- 場所 TKPガーデンシティ広島駅前大橋 4階 ホール4A

主催 中国情報通信懇談会、中国総合通信局、広島県、広島市

後援 NTT西日本、エネコム、日本ケーブルテレビ連盟中国支部、NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送、中国新聞社

主催者挨拶 中国総合通信局長 梅村 研

基調講演1 偽・誤情報等の現状を踏まえた総務省の取組 総務省 情報流通行政局 情報活用支援室 室長 竹下 勝

基調講演2 SNS時代のメディアリテラシーについて 広島大学 大学院人間社会科学研究科 准教授 匹田 篤 氏

取組発表 関係団体が実施している偽・誤情報等への対策

- ・セーフターインターネット協会 事務局 青木幸太郎 氏
偽・誤情報等への対策に係る取組 ～ファクトチェックとメディア情報リテラシー～
- ・鳥取県 デジタル局 局長 下田耕作 氏
鳥取県が取り組むインターネット空間のリスクから県民や地域を守るためのチャレンジ
- ・中国新聞社 メディア開発局 部長 園部貴之 氏
信頼できる情報を地域に届けるために～ 報道機関が果たすべき責任

セミナーには、**教育関係者、自治体、通信事業者、放送事業者、ケーブルテレビ事業者、業界団体等から330名の参加**があった。また、当日の様子は、**NHK及び在広民放3局**と広島市をエリアとする**ケーブルテレビ事業者のニュース番組で取り上げられ**、幅広い層への周知啓発につなげることができた。

【開催目的】

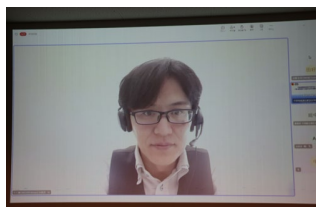
SNSの急速な普及を背景として起こっている偽・誤情報の流通・拡散等の現状、SNSという情報メディアの特性やSNS情報を受容するにあたって把握しておくべきリスク、中国地域の主体を含む様々な関係団体が実施している偽・誤情報に係る対策についての理解の醸成を図り、国民のICTリテラシーの向上、ひいては、情報社会のポジティブな未来の創造につなげる。



中国放送におけるニュース番組の特集（10分程度）で取り上げられた映像



主催者挨拶：梅村局長



基調講演：竹下室長（オンライン）



会場の様子



放送局による取材の様子

中国総合通信局及び（一社）中国経済連合会との共催により、会合を開催しました。

令和7年度 中国地域オープンデータ利活用ラウンドテーブル

- 開催日 令和8年2月3日(火)
- 開催地 中国総合通信局1階 第2会議室（広島市）及びオンライン（Teams）
- 議題
 - ▼令和7年度の取り組みについて
～防災・減災に向けたオープンデータ活用の取り組み状況の報告～
 - ▼令和8年度の取り組み（案）について
～防災・減災に向けたオープンデータ活用の今後の取り組みについて（案）～

<ディスカッションの概要>

- ▼鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、岡山市、広島市、（一社）データクレイドル、（一社）中国経済連合会、中国総合通信局、中国情報通信懇談会より、会場10名、オンライン10名が出席した。
- ▼前回総括で着眼した「民間活用」と「民間データの活用」に重点を置いて取り組んだ今年度事業について報告。コスト面での課題や有用な活用方法について意見交換し、今後も引き続き連携・情報共有していくこととした。



【開会挨拶】



【会合の様子】

「施設見学会（自動運転バス）」を開催

中国情報通信懇談会（地域情報化部会）は、令和7年12月18日に島根県美郷町において「施設見学会」を開催しました。

本イベントは、当会会員の会員メリットの創出及び当会活動への関心を深めていただくことを目的として、総務省地域社会DX推進パッケージ事業（自動運転レベル4検証タイプ）にて実証試験中の自動運転バスの試乗を実施しました。

交通結節点かつ住民が最も多い粕淵地区を運行する自動運転バス（Navya製 EVO）に2班に分かれて乗車と自動運転に不可欠な遠隔監視室を見学し、質疑応答の場では活発な意見交換が行われ有意義な開催となりました。

中国管内各地から12名にご参加いただきました。



実証の概要等

通信環境整備が不十分な中山間地域で通信品質の確保を目的として、粕淵地区（美郷町役場前～浜原地区）では、複数（3社）のモバイル回線を制御することで通信品質を確保することで自動運転を実証。問題なく安定した通信が確保されていました。



自動運転バス車内の様子

バスの特徴について説明を受けながら、片道約3.2kmを運行する自動運転EVバスに乗車しました。障害物や周囲の交通状況により手動介入で操作する場面もありましたが、時速18km/hで走行する車内は快適でした。



遠隔監視室の見学

遠隔監視所は美郷町サテライトオフィス内に設置されていました。大型モニターには走行ルートと自車の位置、バス車内の映像、自動運転バスの計器情報が表示され、バス運行に必要な情報が集約されました。



概要説明及び質疑応答の様子

バス乗車と遠隔監視室視察後に実証事業の代表機関である、NTT西日本様から実証の内容について説明を受けました。質疑応答では、通信確保の課題だけでなく、自動運転の実現に向けた様々な意見交換が行われました。

- 中国総合通信局、山口県、山口市等※との共催により、令和8年1月22日から2日間、山口県山口市において開催（展示会、セミナー及び情報交換を行う場を同時に開催）。
 ※（一社）山口県情報産業協会、（一財）山口県デジタル技術振興財団、（一社）中国経済連合会、中国地域ICT産学官連携フォーラム、デジタルインフラ整備中国地域協議会
- 展示会では、25の団体・組織が出展。防災安全や農林水産、行政、地域活性化、土木インフラ、教育子育てなど、幅広い分野のICTソリューションを展示。展示会の来場者数は2日間で延べ270名。
- セミナーでは、総務省の荒井官房審議官（情報流通行政局担当）から、地域社会DXへの取組やICTによる地域課題解決方策や支援施策の講演。その後、AIドローンや自動運転を活用したまちづくりなど地域課題解決に向けた各種取組について講演。参加人数は194名（会場：91名、Web：103名）。

「地域社会DX推進セミナー」

- ▶ 基調講演
 「総務省の地域社会DX等の取組」
 総務省大臣官房審議官（情報流通行政局担当） 荒井 陽一 氏
- ▶ 講演 1
 「AIドローンの活用可能性」
 KDDIスマートドローン(株)代表取締役社長 博野 雅文 氏
- ▶ 講演 2
 「茨城県境町における自動運転を活用したまちづくりについて」
 茨城県境町 地方創生課 課長補佐 三宅 昭広 氏



【セミナーの様子】

「情報交換を行う場」

セミナー終了後、主催者、講演者、出展者、参加者等を交えた情報交換を行う場（ラウンジ）開催。
 約1時間にわたり活発な意見交換が行われた。（来場者数は40名程度）



「展示会」

＜出展団体＞

アイテック阪急阪神（株）、アラクサラネットワークス（株）、エイチ・シー・ネットワークス（株）、（株）NTTドコモ、NTTドコモビジネス（株）、NTTビジネスソリューションズ（株）、KDDI（株）、KDDIまとめてオフィス（株）、KDDIスマートドローン（株）、（株）コア、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）、スタンシステム（株）、ソフトバンク（株）、（株）中電工、一般社団法人データクレイドル、TOA（株）、東亜ソフトウェア（株）、日本ルースト（株）、（株）ニュージャパンナレッジ、（株）日立システムズ、ひろぎんITソリューションズ（株）、（株）両備システムズ、山口県電波適正利用推進員協議会、中国総合通信局、中国情報通信懇談会（25者）

※悪天候（大雪）のため出展見合わせ1者を除く。



【オープニングセレモニー】



【会場の模様】

5G利活用セミナーの開催

- ローカル5Gの特徴的取組事例や5Gを取り巻く最新動向等を紹介し、さらなる5Gの利活用促進につなげることを目的として、「5G利活用セミナー」*を中国総合通信局との共催により開催。
(*平成30年度から継続して開催。)
- 国の機関や通信事業者・放送事業者のほか、自治体、教育機関、製造業、サービス業などから118名が参加。

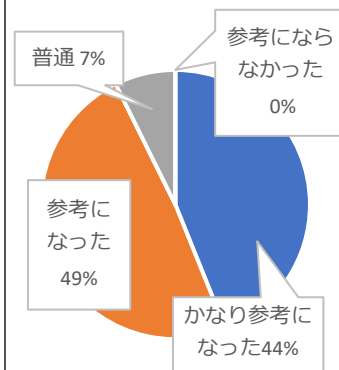
セミナーの概要

- ・ 日 時：令和7年7月10日(木) 14:00～16:20
- ・ 場所等：TKPガーデンシティPREMIUM広島駅前及びオンライン配信
- ・ 講演 1 **ローカル5Gなどの先進無線・デジタル技術等を活用した地域社会DXの取組について**
[総務省 情報流通行政局 デジタル経済推進室 室長 坂本 光英]
総務省における地域社会DX推進パッケージ事業について、ローカル5Gを活用した取組事例を交えて紹介
- ・ 講演 2 **愛媛CATVにおけるローカル5Gによるラストワンマイルの取組事例**
[株式会社愛媛CATV 技術部長 土居 誉伸 氏/担当部長 森田 晋右 氏]
光ファイバ施設が困難な区域でのラストワンマイルの取組事例など、地域に密着したローカル5Gユースケース等を紹介
- ・ 講演 3 **5Gビジネスの現在地とBeyond5G(6G)に向けた取り組みについて**
[株式会社NTTドコモビジネス 5G・エバンジェリスト 辻野 大輔 氏]
防災・医療などの分野での5Gの活用事例や5Gの新サービス・技術の導入事例及びさらなる高度化に向けた最新動向を紹介



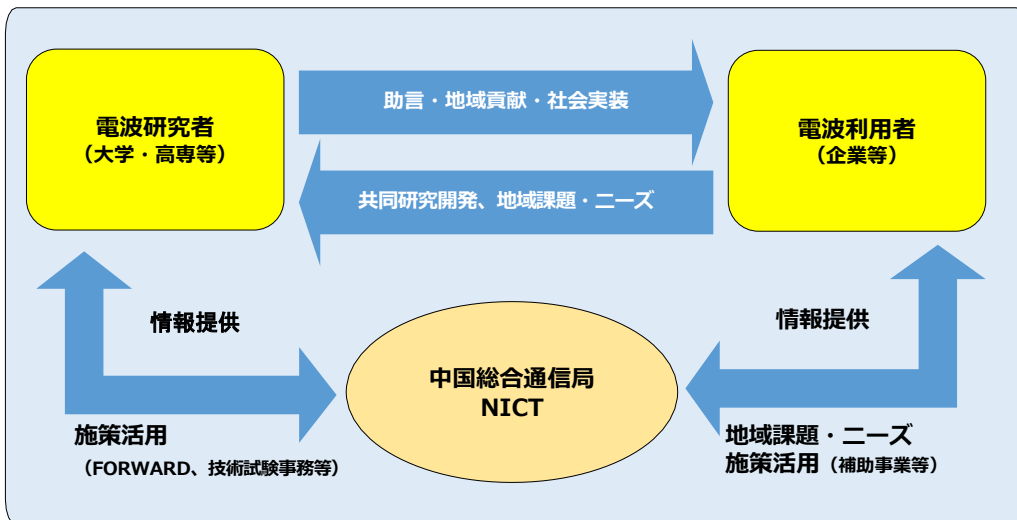
<アンケート結果> (回答数41)

- ・ セミナー内容については右のとおりであり、全体の評価は、約93%が「満足・概ね満足」と回答。
- ・ その他、ご意見・ご要望として、「大変興味深い内容でした」「生成AIと5Gを組み合わせたICT技術の検討事例が知りたい」「共通の地域課題を有する参加者ごとにグループ討論をする時間があればよい」等の声が寄せられた。
⇒ 次回開催検討における参考とする。



中国地域電波研究者連絡会との連携

- 中国地域の電波を専門とする研究者の意見交換の場として連絡会を設置し、総務省等からの情報提供や、研究者相互の情報交換の活性化を通じて、電波有効利用のための研究開発事業への応募や、実験試験局（特定実験試験局を含む）の開設などにつなげ、電波分野の研究開発の活性化の一助とするとともに、中国地域における電波の有効利用に資する研究開発の促進を図ることを目的とする。
- 電波研究者相互で研究分野などの情報を共有し、電波分野での研究開発の促進に繋げるため、令和7年7月に「中国地域の電波研究者ファイル」を作成し、共有の同意を得た研究者（40名）相互で共有。



【第6回電波研究者連絡会】

- **日時**：令和7年12月22日（月） 15：00～16:45
- **場所**：中国総合通信局会議室とTeamsオンライン
- **参加者**：大学関係者 12名、高专関係者 2名
- **議事**
 - (1) 持続可能な電波有効利用のための基盤技術研究開発事業 (FORWARD)について
 - (2) NICTの研究開発の取組について
 - ・ NICTの産学官連携による研究開発の取組の紹介
 - ・ FORWARD研究事例の取組の紹介
 - (3) 意見交換
 - ・ 「中国地域の電波研究者ファイル」の共有・更新等について
 - ・ ICT研究開発支援セミナーの取組について
 - ・ 電波利用促進部会における「5G活用セミナー」の後継について
 - (4) その他

「中国地域の電波研究者ファイル」登録票イメージ

ふりがな 氏名		所属先	
学部学科 (研究室)		役職	
連絡先等 ・メールアドレス ・研究室のURLなど			
主な研究・専攻分野			
総務省施策への採択状況			

【開催状況】

- **第1回** H31年4月26日 当局会議室で開催。研究者 10名参加
- **第2回** R元年 9月 4日 当局会議室で開催。研究者 8名、企業 7社参加
- **第3回** R6年 1月24日 当局会議室で開催。研究者 10名参加
- **第4回** R6年12月16日 当局会議室で開催。研究者 16名参加
- **第5回** R7年 9月 4日 フルオンラインで開催。研究者 14名参加
- **第6回** R7年12月22日 当局会議室とオンラインで開催。研究者14名参加

ICT研究開発支援セミナー(高専ICTソリューション発表会)

- Beyond5G・デジタルツインなどの最新の研究開発動向や最新技術の目指すべき方向性についての基調講演と、社会が必要とする実践的技術者の養成を行っている高等専門学校(高専)*の学生から、ICTを活用した地域課題解決のためのソリューションやユースケース等に係る研究内容の発表を行うとともに、高専生と研究者や企業関係者との意見交換等の交流の機会を設け、地域における研究開発力の向上、課題解決を担えるICT技術者の育成、スタートアップの創出等に資することを目的に開催。

*全国に58校あり、うち中国地域には全国最多の8校が存在。

1 日時・場所・開催方法

- ▶ 日時：令和8年3月3日(火) 13:00~17:20
- ▶ 場所：TKPガーデンシティ広島駅北口(広島市東区二葉の里3-5-7)
- ▶ 開催方法：ハイブリット開催(研究者は会場またはオンライン参加、学生はオンライン参加)

2 プログラム

▶ 基調講演(公開)

講師：下西 英之氏(大阪大学大学院 情報科学研究科 教授)

演題：将来社会に向けたデジタルツイン/Beyond 5Gのビジョン

通信技術の過去から現在までを簡単に振り返り、未来への展望について語ります。特に、Beyond5Gやデジタルツインといった最新の技術動向について解説した上で、未来の社会やその社会課題を想像しつつ、これらの技術が今後目指すべき方向性について考えます。

▶ 高等専門学校生によるICTソリューション等の発表×7校(公開)

- 米子工業高等専門学校 : 【光照射デバイスの制御による有害鳥類撃退の試み】
- 松江工業高等専門学校 : 【無人販売の料金箱を用いた防犯システム】
- 津山工業高等専門学校 : 【カードタッチ型出席管理システムの開発】
- 呉工業高等専門学校 : 【バーチャル都市交流型VRサイクリングマシン開発】
- 徳山工業高等専門学校 : 【離島航路の見える化と船位予測によるMaaS基盤改善の検討】
- 宇部工業高等専門学校 : 【IoTを用いた図書館座席予約・在席管理システムの開発と実証】
- 大島商船高等専門学校 : 【オンラインでの海中観察配信】

▶ 意見交換会(非公開)

- ・高専関係者、電子情報通信学会中国支部、中国地域電波研究者連絡会及び中国情報通信懇談会との意見交換
- ・発表の振り返り、高専生や高専の教授陣と研究者等との交流(人材育成面について)
- ・当局からの情報提供(最新の情報通信政策など)

「学生との意見交換会」を開催

中国情報通信懇談会は、放送部会として初めての取組となる、「学生との意見交換会」を広島エフエム放送株式会社の協力のもと、開催しました。

本意見交換会は、近年、ブロードバンドの普及、インターネット動画配信サービスの伸長、視聴デバイスの多様化、視聴スタイルの変化、若者を中心とした「テレビ離れ」など、放送を巡る環境は大きく変化してきている中、大学生と放送事業者と意見交換することを通じて、放送事業者にとって気付きを得る機会とし、今後の取組に繋げるとともに、若者にとっても放送メディアに対する理解を深める契機となることを目的として開催しました。

この意見交換会には、広島修道大学及び広島市立大学から学生が10名、染岡放送部会長や放送部会幹事など合計17名が参加しました。

意見交換会の概要

日時：令和8年3月4日（水） 14:00～16:00

場所：広島エフエム放送株式会社 第1会議室

(1) 放送施設（スタジオ、調整卓など）の見学

(2) 広島エフエム放送からの業務説明

・業務全般の説明

（広島エフエム放送 管理本部

寺島 陸雄 技術部長）

・番組制作及び報道等の説明

（広島エフエム放送 コンテンツ本部

磯貝 修也 編成制作部 副部長）

(3) 学生との意見交換

(4) 閉会に際してのまとめ

中国情報通信懇談会 放送部会長 染岡 慎一

【意見交換の内容】

- ・日頃情報の入手に利用している情報メディアについて
- ・若者にとって日常生活の中でテレビ・ラジオ等の放送をどのような存在と認識しているか
- ・入手する情報について、信頼性をどのように判断しているか
- ・情報の入手の姿勢（自ら収集するか、受け身かどうか）について
- ・今回の経験でラジオ放送への関心が高まったかどうか
- ・放送事業者への要望

→これらの質疑を通じて、学生の放送メディアに対する理解が深まり、放送事業者も学生の価値観や考え方などに接することができました。

意見交換の様様



施設見学の様様

令和7年度電波の日・情報通信月間記念講演会を開催

中国情報通信懇談会（電波の日・情報通信月間推進部会）は、中国総合通信局と共催で、令和7年5月29日に電波の日・情報通信月間を記念した講演会をハイブリッド形式で開催しました。今回は、今年が懇談会設立40周年の節目の年であったことから、中国情報通信懇談会設立40周年と、電波の日・情報通信月間の記念講演会として開催しました。

講師には、慶応義塾大学 特別特区特任教授 村井 純 氏をお迎えし、「インターネット文明」と題してご講演いただきました。

当日は、中国地域のみならず全国の自治体やICT関連企業などから、会場、オンライン合わせ約300名の方に聴講いただきました。

- **主催**
中国情報通信懇談会、中国総合通信局
- **開催日**
令和7年5月29日(木)
- **演題**
「インターネット文明」
- **講師**
慶応義塾大学
特別特区特任教授 村井 純 氏
- **参加者**
305名
(会場：120名、オンライン：185名)
- **開催方法**
ハイブリッド形式（対面とオンライン
(Teamsウェビナー) を併用)



主催者挨拶 中国総合通信局長
梅村 研



閉会挨拶 中国情報通信懇談会
運営委員長 相原 玲二



講師 慶応義塾大学 特別特区特任教授
村井 純 氏



講演風景

中国情報通信懇談会（電波の日・情報通信月間推進部会）は、中国総合通信局と共催で、令和7年6月2日に「令和7年度電波の日・情報通信月間記念式典」を開催し、中国地域の電波利用・情報通信の発展に貢献があった個人及び団体に対し、表彰状を授与しました。

式典には、約200名の関係者の方々に出席いただきました。また、式典終了後には情報交換会を実施しました。

概要については、以下のとおりです。

- **主催**
中国情報通信懇談会、中国総合通信局
- **開催日**
令和7年6月2日(月)
- **開催場所**
ANAクラウンプラザホテル広島（広島市）
- **表彰状の授与**
 - ・電波の日局長表彰（1個人、3団体）
 - ・情報通信月間局長表彰（2個人、8団体）
 - ・中国情報通信懇談会表彰（1個人、2団体）
- **参加者**
約200名



開会挨拶
中国総合通信局長 梅村 研



閉会挨拶
中国情報通信懇談会会長 芦谷 茂



表彰の様子



表彰の様子



情報交換会の様子